
魔法少女リリカルなのは S T R I K E R S ~アギトの系譜~

Fe

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

JのPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

魔法少女リリカルなのはSTRIKERS～アギトの系譜～

【Zコード】

N4126BA

【作者名】

Fee

【あらすじ】

一人の少年がミッドチルダに現れた。彼には魔力がなく、リンクアーノー。本当にごく普通の少年だった。

しかし誰も知らない。彼こそが人類が持つ可能性の体現者なのだと。

これはアギトと呼ばれた少年が紡ぐ、優しくも残酷な愛と勇気の物語。

プロローグ（前書き）

まず、ヒロインはスバル。そしてオリキャラとのカップリングです。
次にはとフェイトの扱いがかなり悪いです。

最後に、エリオとルーテシアのカップリングもあります。

以上を許容出来ない方が気分を害されても、筆者は一切責任を負いかねますのでご了承下さい。

プロローグ

何重にも隔てられた筈のシェルター越しに銃声や砲弾の音が聞こえてくる。

「芦原さん！どうですか状況は？」

「芳しくない。いくらアギトに覚醒していても、俺やお前と違つて戦い慣れてない者が大半だからな」

緑の異形から人間の姿に戻った青年は人懐こそうな顔の青年を前に、険しい顔で首を振った。

「何でこんな・・・！何で今更こうなるんだ！」

青と銀の鎧に身を包んだ青年が悔しげに壁を殴る。傍らには赤い目のマスクが転がっていた。

「大丈夫ですよ氷川さん。皆少し慌てるだけです

「そうは言いますけどね津上さん！」

氷川と呼ばれた青年は立ち上がったが、津上という青年の笑顔に一歩下がつた。

「俺は信じたいです。アギトは人間、皆それをちょっとだけ忘れてるんだつて事

三人が話していると、一人の少年が歩いてきた。

「大丈夫。あの三人は神様だつてやつつけたんだから

その肩をそつと後ろからやつて来た女性が抱いた。その時轟音と共に部屋のドアが破られた。

「小川さん、後をお願いします」

氷川がマスクを被ると後頭部まで覆われる。駆動音を響かせ、その

鎧は巨大なガドリング砲を構えて立ち上がった。人類が生み出した英知の結晶、名をG3-X。

「津上！とにかくこいつらを追い返すぞ！」

葦原も両腕をクロスさせて叫んだ。

「変身！」

緑の光に包まれ、その姿は異形へと変わる。複眼を思わせる深紅の瞳、緑色の角、両腕から伸びる鋭利な爪。かつて神の一人が人間と結ばれた末に生まれたとされる存在、名をギルス。

「出来るだけ殺さずに追い返して下さいよ？」

津上も呼吸を整えながら構えを取る。光と共に腰に巻かれたベルトが燐然と輝いた。

「変身！」

白い光に包まれ、その姿は金色の鎧を纏つたかのような姿へと変わる。深紅の瞳、金色の角、胸に輝く英知の証。人に与えられた可能性が見せる一つの極み、名をアギト。

「小川さん、その子を奥へ」

「分かったわ。三人とも気をつけて」

小川は少年を抱き上げて奥へと走る。その姿を見送り、三人のアギトは咆哮と共に踏み込んできた人間相手に挑みかかった。

「ねえ、おねえちゃん」

腕に抱かれたまま、少年は小川を見上げた。

「ぼくのこと、おとーさんもおかさんもいらないって」

「そんな事ない！生まれてきて疎まれるなんて、そんな事は・・・」

「！」

小川は必死で否定するが、それを絶対とする事は出来なかつた。何

故なら彼女に抱かれたこの、僅か五歳になるかならないかといつ子供ですらもアギトの可能性を秘めているのだから。

（北条君がいとも上を押さえられなかつた・・・連中がアギトを恐れる感情はとことん根が深いみたいね）

一瞬よそ事を考えた時だつた。

「つ・・・！」

耳鳴りに似た感覚と共に足場が消える。そんな錯覚を覚えて思わず少年を放り出した。

「逃げて！」

しかし、その少年を投げた先が歪んでいたらしい。何が起こつているのかも分からぬ顔で飲み込まれていく少年に手を伸ばし、小川は絶叫した。

少年が目を開けた時、そこは知らない天井だった。

「目が覚めたのね。痛いところはない？」

少年はコクリと頷いた。

「公園に倒れていたのだけど・・・まあいいわ。今はゆっくりお休みなさい」

青紫の髪を長く伸ばした女性はたおやかに微笑んで少年を撫でた。

(・・・ぼく、だれだっけ？)

その事実を少年が口にし、女性の顔が凍りつくまで・・・後十秒。

e d . . .

T o B e C o n t i n u

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4126ba/>

魔法少女リリカルなのはSTRIKERS～アギトの系譜～

2012年1月10日22時50分発行